

二〇二二年三月五日

枝先に雨滴連ねて芽吹きそむ
生駒嶺に龍這ふごとく棚霞
龍馬訪ひめぐる木屋町春時雨
包装紙春の色なり内祝
磯蟹の目の忙しなき潮溜
川下る舟水仙の岸はなれ

二〇二二年三月四日

意地悪な春の嵐に乱れ髪
余所見して春泥に足とられけり
とりどりの芽吹きに触れつ車椅子
コロナ禍や尊徳像もマスクされ
鯉跳ねて池面の木立ぐしやぐしやに
強東風に向き定まらぬ風見鶏
朝靄の湖にゆらめく蜩舟
路地裏の風まぎれなく沈丁花

二〇二二年三月三日

別々に動く双子や雛飾る
雛まつり紅引く吾子のおちよぼ口
少しづつ伸びゆく試歩や風光る
ゆったりと朧月夜へ観覧車
春風裡老いのデートのお買物
春宵の路上ライブやケーナの音

二〇二二年三月二日

一輪車乗れて笑顔や桃の花

満天
たか子
凡士
こすもす
智恵子
あひる

こすもす
ぼんこ
やよい
もとこ
明日香
みきお
凡士
むべ

こすもす
智恵子
やよい
豊実
あひる
凡士

みきお

春の雨糸の絡まるミシン掛
ジオラマの小さき町並み春灯す
竹藪を振り回したる春一番
よちよちに尻餅つかれ犬ふぐり
春色のスカート妻にプレゼント

二〇二二年三月二日

宮の梅三三九度の指白し
梅東風や祈願の絵馬の犇めきて
老犬の腹に潜りし仔猫かな
櫛なす飛行機雲や梅の丘
ぎよる目むく閻魔大王春の塵

二〇二二年二月二八日

老犬は小屋で半眼春の月
一山の芽吹きを待てる野辺地蔵
コーヒーの香に春眠の覚めにけり
旅の宿門燈籠に春ともし

二〇二二年二月二七日

安寧を願ひし菩薩梅の丘
文旦の皮剥く指に気合ひ入れ
顔少しそらしてをりし古雛
園児らの前にならへや梅日和

なつき
凡士
明日香
智恵子
せいじ

智恵子
みきお
たかを
こすもす
ぼんこ

素秀
素秀
あひる
凡士

たか子
あひる
なつき
もとこ

毎日句会みのる選・二〇二二年三月七日